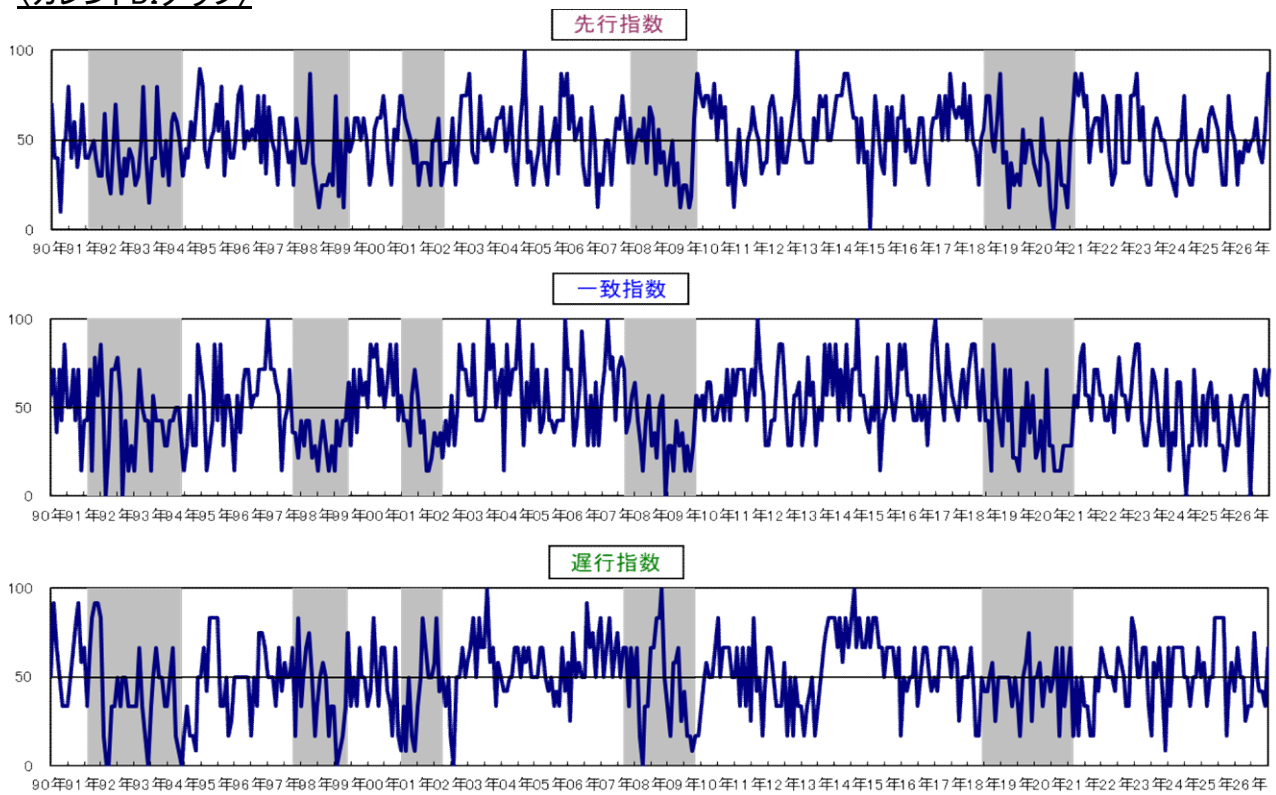
3 佐賀県のDIグラフ

〈カレントDIグラフ〉



※シャドー部分は景気後退期を示す。

（注）令和4年10月分まで先行系列の指標に用いていた「不渡手形金額」及び「手形交換金額」は、令和4年11月の電子交換所への移行に伴いデータの公表がなくなったため、令和4年11月分からこれらを除外した指標により先行指数を算出しています。
なお、遡及して全期間を再計算しているので、これ以前の公表分とはグラフの数値が異なります。

景気動向指数（DI：Diffusion Index）の見方

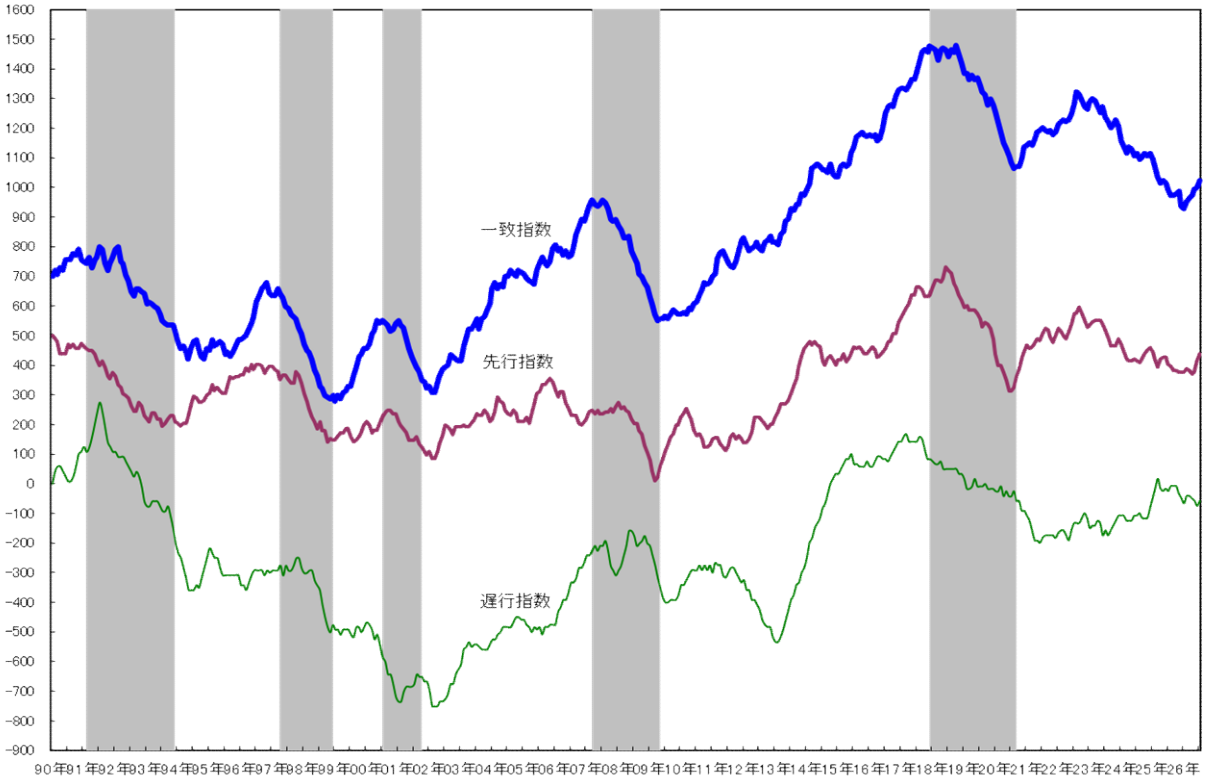
★ DIは、景気の動きを各種の指標によって総合的にとらえようとするもので、各系列で採用指標のうち3か月前と比較して増加している系列（＋）が何％を占めているかを表したものです。
各系列において、指数の計算方法は次式によります。
指数＝（「＋」の指標数＋0.5×保ち合い「0」の指標数）÷当該採用指標数×100

★ DIには3つの指標があり、それぞれ下記のような特徴があります。
「先行指数」・・・ 景気に対し先行して動き、景気の先行きを予測する。
「一致指数」・・・ 景気に対しほぼ一致して動き、景気の現状を示す。
「遅行指数」・・・ 景気に対し遅れて動き、景気の動きを確認する。

★ 一致指数が基調的に50％を上回って推移している時期は景気拡張期、
50％を下回って推移している時期は景気後退期と判断します。
なお、値そのものの大きさは景気変動の大きさないし振幅を示すものではありません。

★ DIは不規則な動きをすることが多いので、基調的な動きは累積DIのグラフでみると分かりやすくなります。

〈累積DIグラフ〉



※ シャドー部分は景気後退期を示す。
今月の累積DI＝先月の累積DI＋（今月のDI－50）

※ グラフを見やすくするため、本グラフに限り、先行指数は500、一致指数は700を初期値に加算して表示しています。

（注）令和4年10月分まで先行系列の指標に用いていた「不渡手形金額」及び「手形交換金額」は、令和4年11月の電子交換所への移行に伴いデータの公表がなくなったため、令和4年11月分からこれらを除外した指標により先行指数を算出しています。
なお、遡及して全期間を再計算しているので、これ以前の公表分とはグラフの数値が異なります。

4 佐賀県の景気基準日付

谷	山	谷	期間		
			拡張	後退	全循環
－	S48(1973)年12月	S50(1975)年5月	－	17か月	－
S50(1975)年5月	S52(1977)年1月	S53(1978)年1月	20か月	12か月	32か月
S53(1978)年1月	S55(1980)年2月	S57(1982)年12月	25か月	34か月	59か月
S57(1982)年12月	S60(1985)年5月	S61(1986)年11月	29か月	18か月	47か月
S61(1986)年11月	H3(1991)年1月	H5(1993)年12月	50か月	35か月	85か月
H5(1993)年12月	H9(1997)年3月	H10(1998)年12月	39か月	21か月	60か月
H10(1998)年12月	H12(2000)年6月	H13(2001)年10月	18か月	16か月	34か月
H13(2001)年10月	H19(2007)年2月	H21(2009)年5月	64か月	27か月	91か月
H21(2009)年5月	H29(2017)年12月	R2(2020)年9月	103か月	33か月	136か月
R2(2020)年9月					